

教科の研究主題	問題意識をもち、自ら追究し表現する態度をはぐくむ社会科学習指導の在り方
---------	-------------------------------------

授業のテーマ	裁判員制度による模擬裁判を通して、具体的事例から裁判所のしくみや役割について理解を深める学習指導法の工夫
--------	--

- 1 単元 国の政治のしくみ
2 目標

- ・身近で具体的な事例を通して、現代日本の政治に関心をもち、意欲的・自主的な学習をする中で、「将来の主権者」としての自分を自覚し、すすんで政治に関わっていこうとする。(関心・意欲・態度)
- ・作業的、体験的な学習を通じて、わが国の民主政治が日本国憲法をはじめとするほうに基づいて行われている事に着目し、議会制民主主義の意義について考えることができる。(思考・判断)
- ・平易な新聞記事・法令・判例等を活用しながら、現代の日本の政治の動きを多角的・多面的にとらえ、公共機関等の連携に留意しながら多様な調査活動や表現ができる。(技能・表現)
- ・地方自治の基本的な考えとしくみ、国会を中心とするわが国の民主政治の考え方やしくみのあらましについて、地域住民・主権者の立場から理解できる。(知識・理解)

3 単元について

本単元は、現代日本の民主政治の基本原理や理念を知り、それらがすべて日本国憲法をはじめとする法のもとに成り立っていること、また、主権者である国民の政治参加により実現していることなどを、身近な事例を通して理解することをねらいとしている。政治への関心が薄れているといわれて久しい現代社会において、生徒は、5年後に有権者として実質的な社会の形成者となる。本単元では、その点を常に意識しながら、自ら問題を発見し、追究できるようにしていきたい。そのためには、単に立法・行政・司法のしくみと役割を理解するだけでなく、模擬体験や行政機関との連携などを通して、政治は自分たちとつながっているものであり、一人一人が政治に関心をもち、実際に参加することではじめて主権者としての存在意義が生まれてくることを、実感をもってとらえさせていくことが重要となる。

本学級の生徒は、社会科の学習の中で、小集団での話し合い活動、ディベート、記者会見方式の話し合い活動などを通して、多様な表現活動を経験している。その結果、他者に対して調べた事実や自分の考えを端的に伝えることはできるものの、互いの意見を絡ませながら論点を発展させていくような双方向の話し合い活動までには至っていない。

以上のことから本時では、模擬裁判を通して現代の司法制度に対する理解を深めることとした。法廷内での役割演技から、裁判の意義を見だし、自分なりの見方や考え方を構築することを学習の柱とする。実際の活動では、事前の学習で習得した知識を十分に活用しながら、刻々と変化する裁判の流れに応じた状況判断及び他者との論戦での適切な応答が鍵となる。また、民事裁判ではなく刑事裁判の「裁判員制度」をあえて取り扱う意図は、既習事項である基本的人権が社会制度の中でどのように守られているかを具体的に裏付けることにある。学習後には、社会の一員として自分たちはどのように考え、行動していけばよいのか、さらには、司法制度の在り方に対して自分はどう考えるかなど、生徒それぞれの変容に期待したい。

4 学習計画(8時間取り扱い) ※ 下表は6・7・8時の学習過程を示す。

時間	学習過程	目標	評価規準
1	法を守る裁判所	・法の役割と裁判所のはたらきについて概要を知り、役割ごとに模擬裁判の準備をすることができる。	・法の役割と裁判所のはたらきに関心をもち、模擬裁判へ準備に意欲的に取り組もうとしている。 (関心・行動観察 ワークシート)
① 本時	裁判の種類と人種	・模擬裁判を行い、裁判所のしくみや裁判に関わる人々の役割模擬体験し、人権はどのように守られているのかを理解することができる。	・模擬裁判を通して、具体的な場面と結び付けて、裁判所のしくみや裁判に関わる人々の役割を知り、人権が司法により守られていることを理解している。 (知識・行動観察 ワークシート)
1	三権の抑制と均衡	・新聞資料などをもとに、三権分立の具体的なしくみを調べ、他の人に発表することができる。	・三権分立がなぜ重要なのかを、新聞資料などから具体的事例と関連付けて調べ、表現している。 (表現・行動観察 ワークシート)

5 本時の学習

(1) 目標

- ・ 模擬裁判で具体的な役割から発言・行動することにより、裁判所のしくみや裁判に関連する人々の役割について知り、人権保障が司法によってなされていることを実感をもって理解することができる。(知識・理解)

(2) 準備・資料

- ・ 教師 裁判の進め方の資料及びワークシート 法廷構成図
- ・ 生徒 模擬裁判準備シート

(3) 展開

学習活動及び内容	表現力を高める工夫	教師の支援・留意点
<p>1 本時の学習課題について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>模擬裁判（裁判員制度） 裁判により私たちの人権はどのように守られているのだろうか</p> </div> <p>2 模擬裁判の進め方について確認する。</p> <p>③ 模擬裁判を行う。 《刑事裁判》 ○ 予想される事案：窃盗 ○ 設定条件： ・ 情状酌量の余地のあるもの。 ・ 被告が共感のもてる年代であること。</p> <p>4 模擬裁判を振り返り、判決内容について人権が守られているか話し合う。</p> <p>5 学習をふりかえって自己評価をし、次時の見通しをもつ。</p>	<p>◎ 役割になりきり、それぞれの立場から主張点を明らかにして、論戦に参加できるようにする。</p> <p>・ 基調提案者を決め、その生徒の意見をもとに話し合いが進められるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習内容を想起させ、本時の学習内容の基礎となる事項を確認するとともに、それらのことを実際の模擬法廷で検証していくことを伝え、学習への意欲を高める。 ・ 裁判の進め方シート、法廷構成図により、学習の進め方について見通しをもつ。 ・ 裁判員制度は合議制によって成り立つものであることから、裁判員をいかに説得できるかがポイントであることを共通理解し、論戦の意欲付けとしたい。 ・ 可能な範囲で法廷の様子を再現し、当事者の意識を高められるようにする。 ・ 正規の裁判の流れを踏まえつつも、事前に準備分担した役割により、生徒が主体的に進められるよう支援する。 ・ 論点かかみ合わない場合や、答弁に困っている生徒がいた場合には、裁判を一時中断し、思考を立て直す場面を保障するようにする。 ・ 裁判後には、判決内容を人権保障の観点から適切なものであったかを検討し合う。その際に、個人の批判に終始することがないように支援する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役割演技などの活動を通して、裁判所のしくみや裁判に関連する人たちの役割について理解している。(知識、行動観察 ワークシート) ・ 司法によって人権が守られていることをワークシート記入を通して考えている。 (思考、ワークシート) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬裁判の具体的な活動と結び付けて、実感のもてる評価になるよう助言する。